県内９か所の農業改良普及センターからの新鮮な現地情報をお届けいたします。

みやぎの普及

普及活動標語

思いを形に,あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの　１月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.179　2022.1

紹介内容（12/1～12/31）

１．みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

①　先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

〇　気仙沼農改：気仙沼地区農業士会の研修会を開催しました
〇　大　崎農改：みやぎ農業未来塾「情報発信をはじめよう～農業の魅力を伝える SNS 活用術」を開催しました
〇　大　崎農改：「中山間スマート水稲種子生産技術実証」富山県から視察
〇　美　里農改：松山町酒米研究会作柄検討会が開催されました
〇　仙　台農改：松島町内でトマト生産法人を対象としたグロワー技術交流会が開催されました
〇　大河原農改：集落営農に係る先進地視察研修を行いました
〇　石　巻農改：「農業経営の継承を考える研修会」を開催しました
〇　亘　理農改：山元町の「株式会社一苺一笑」が全国優良経営体表彰の農林水産省経営局長賞を受賞しました

②　新たな担い手の確保・育成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

〇　仙　台農改：仙台農業士会が「ＪＲフルーツパーク仙台あらはま」で研修会を開催しました
〇　栗　原農改：～生活を潤す技の伝達～　リーダー研修会・ルーラルガイド講習会
〇　登　米農改：みやぎ農業未来塾「経営研修会」を開催しました
〇　石　巻農改：若手生産者向けミニトマト勉強会（第２回）の開催
〇　登　米農改：第３回「女性農業者活躍支援研修会」を開催しました
〇　石　巻農改：石巻地区４Ｈクラブが視察研修会を開催しました
〇　仙　台農改：みやぎ農業未来塾「みみずコンポスト勉強会」を開催しました
〇　石　巻農改：コロナに負けるな！石巻農業士会歓送迎会の開催
〇　栗　原農改：栗原市若柳に新たな農事組合法人が設立されました
〇　石　巻農改：農業簿記の基礎研修会で経営力アップを支援！
〇　気仙沼農改：「農業・農村女子会　第２弾」を開催しました！

③　先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援　・・・・・・・・・・・・・・・・７

〇　亘　理農改：「水稲初冬直播栽培意見交換会」が開催されました
〇　石　巻農改：ぶどうせん定講習会を開催しました
〇　石　巻農改：アグリテックアドバイザー派遣事業を活用したほ場管理システム（KSAS）の研修を実施しました
〇　仙　台農改：初冬直播栽培意見交換会が開催されました

④　園芸産地の育成・強化支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

〇　栗　原農改：いちご圃場巡回指導会が開催されました
〇　登　米農改：ＪＡみやぎ登米花卉部会のストック出荷査定会開催
〇　石　巻農改：「石巻せり鍋」発表会が開催されました！
〇　登　米農改：ＪＡみやぎ登米そらまめ部会の現地検討会が開催されました

このニュースレターは，ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

④　園芸産地の育成・強化支援（続き）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
〇　仙　台農改：宮城県なし栽培研修会に管内の農家が参加しました
〇　大河原農改：仙南地区の「たまねぎ」作付け拡大へ　栽培研修会を開催しました
〇　仙　台農改：冬の味覚をレジャーや食卓でどうぞ味わって！
〇　気仙沼農改：南三陸町で初のぶどうせん定講習会を開催しました
〇　亘　理農改：亘理・山元果樹産地協議会が設立されました！

⑤　収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
〇　気仙沼農改：令和３年度新嘗祭に気仙沼市本吉町の芳賀一充氏が献穀献納しました
〇　大　崎農改：第５回全国ササニシキ系「ささ王」決定戦 2021 が開催されました
〇　気仙沼農改：気仙沼市本吉放牧場検討会が開催されました
〇　栗　原農改：稲作実践盟友会稲作経営総合検討会が開催されました
〇　栗　原農改：ＪＡ新みやぎ栗っこ稲作総合検討会が開催されました

２．時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

①　時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
〇　美　里農改：令和３年度「金のいぶき」実績検討会が開催されました
〇　気仙沼農改：「金のいぶき」が管内で初収穫されました
〇　栗　原農改：水稲採種組合の栽培講習会が開催されました
〇　気仙沼農改：清流「蔵の華」廿一会の栽培反省会を開催しました

３．多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

①　地域資源の活用等による地域農業の維持・発展　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
〇　仙　台農改：新規園芸品目のそらまめを定植しました
〇　気仙沼農改：令和３年度気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会移動研修会を開催しました！
〇　仙　台農改：鳥獣害対策担当者研修会が開催されました
〇　大　崎農改：いつもの冬野菜が大変身！生活研究グループ研修会を行いました
〇　美　里農改：女性農業者を対象にキャリアアップ研修会を開催しました

１．人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○気仙沼地区農業士会の研修会を開催しました
令和3年12月2日
気仙沼農業改良普及センター

11 月 10 日，気仙沼地区農業士会は南三陸町内で視察研修会を開催しました。地区の農業士会会員に加えて，気仙沼地区４Ｈクラブ員にも参加を呼びかけ，関係機関も含めて 15 人が参加しました。

研修会では，南三陸町にある株式会社南三陸 Pine Pro の枝もの用クロマツ栽培の取組を視察しました。枝もの用クロマツはお正月飾り等に利用され，既存産地の減少により市場から増産が求められています。(株)南三陸 Pine Pro では平成 30 年からクロマツ栽培を始め，今年から本格的な出荷を迎えています。

参加者は，クロマツの生産ほ場で生育状況を確認し，調製場で収穫後の調製作業を学ぶとともに，クロマツ経営について積極的に質問していました。また，NOSAI 宮城迫支所から収入保険の概要について情報提供されました。研修では，幅広い層の農業者が顔を合わせ，良い情報交換の場となりました。

○みやぎ農業未来塾「情報発信をはじめよう～農業の魅力を伝える SNS 活用術」を開催しました
令和3年12月7日
大崎農業改良普及センター

大崎農業改良普及センターでは，11 月 25 日に管内の若手農業者を対象に，農業の魅力を伝えるための SNS による情報発信手法を学ぶ，みやぎ農業未来塾を開催しました。

講師には，加美町の農家の９代目で，自身の農作業の様子などを YouTube で配信し，１万人のチャンネル登録者をもつ，山城恵介さんをお迎えしました。参加者は SNS の使い分けなど基本的なことを学び，山城さんに実際の編集の様子を見せていただきながら，自分が SNS で情報発信をするならどのようにやってみたいかなど，イメージを膨らませていました。

情報交換や研修が終わった後も，講師を囲んでにぎやかに交流が行なわれ，お互いに連絡先を交換するなど，仲間づくりの場にもなったようでした。参加者からは，自分も SNS を活用した情報発信をしてみたいという積極的な声が上がっていました。

普及センターでは，今後も青年農業者の活動を支援していきます。

○「中山間スマート水稲種子生産技術実証」富山県から視察
令和3年12月7日
大崎農業改良普及センター

大崎普及センター管内の「農事組合法人いかずち」が取り組んでいる「中山間地域における精密，省力なスマート水稲種子生産技術実証（令和２～３年度)」について，12 月２日に富山県農林振興センターで採種事業を担当する普及指導員が視察に来ました。

当日は，大崎普及センター管内の水稲種子生産・審査についてひととおり説明した後，法人事務所に移動して，法人の経営概要やスマート水稲種子生産技術実証の内容について説明，そして法人の代表と副代表から取組状況等について説明を受けました。

代表からは，親世代から”せがれ世代 ”への世代交代のタイミングであり，本事業での取組を活用させてもらって「変わる・新しい事に取り組んでいく」といった流れをつくることができて良かったし，感謝しているとの話がありました。

視察者である富山県の普及指導員は，防除作業において，２台のドローンで 100ha の水田を１日で作業できるようになったと聞いて大変驚き，「富山県は水稲種子生産が盛んで，他県向けとして関東や近畿，九州方面まで種子を供給しているが，個別完結での生産がほとんどで高齢化も進んでいる。農業者が集落営農組織として法人化し，共同作業でこのような効率的な生産体制を取っていることに感銘しました。」と話されていました。

○松山町酒米研究会作柄検討会が開催されました

令和3年12月9日
美里農業改良普及センター

1995 年設立の松山町酒米研究会は，地元酒蔵である(株)一ノ蔵と連携し，有機 JAS 等による酒米づくりに取り組んでいる組織です。今までの活動が評価され，10 月には「第９回オリザ賞団体賞」準大賞を受賞しました。

12 月４日，(株)一ノ蔵社長の鈴木整氏，県議会議員の中島源陽氏を来賓にお迎えし，今年度の酒米作柄検討会が開催されました。

普及センターからは，今年度の水稲の作柄全般について説明しました。また，宮城県で育成された酒造好適米「吟のいろは」について，会員の皆さんと普及センターが一緒に取り組んできた展示ほの調査結果についても触れ，前年より倒伏が少なく，千粒重は 27～28g と大きく，品種特性である心白発現率も高いことなどを説明しました。

全農みやぎ及び(株)一ノ蔵からは，コロナウイルスの影響等で日本酒の消費が減少しており，４年産は作付減少が必要となっているが，「吟のいろは」の需要量は微増となっている，等の情報提供がありました。研究会の櫻井会長からは，「米や日本酒を取り巻く情勢は厳しいが，これからも研究会は高品質の酒米を生産していく。」という言葉がありました。

普及センターでは，これからも松山町酒米研究会の活動を支援してまいります。

○松島町内でトマト生産法人を対象としたグロワー技術交流会が開催されました

令和3年12月13日
仙台農業改良普及センター

12 月７日，松島町文化観光交流館を会場に，県園芸推進課主催のグロワー技術交流会が開催されました。当普及センター管内からは，みやぎ環境制御技術交流ネットワークに加入している大規模トマト生産法人５社の参加がありました。

第１部のセミナーでは，(株)サラの佐野取締役が「自社が目指す野菜事業と戦略的企業連携」をテーマに，また，明治大学の岩崎教授が「シンクソースバランスから考える栽培管理と肥培管理」をテーマに講演を行いました。

第２部では，第１部の講師を交えて，参加した各法人の取組紹介に加え，販売戦略や環境制御技術の考え方等について質疑応答や情報交換を行い，大変有意義な交流会になりました。

今後とも，普及センターでは，園芸推進課や全農みやぎ等と連携し，園芸産出額向上に寄与できるよう大規模トマト生産法人を支援していきます。

○集落営農に係る先進地視察研修を行いました

令和3年12月17日
大河原農業改良普及センター

川崎町の「農事組合法人ふるせきファーム」は，今年 10 月に法人を設立し，現在，翌年春の営農開始に向けて準備作業を進めているところです。

このような中，12 月３日に，同じ中山間地域で先進的に集落営農を行っている丸森町の「農事組合法人伊手ファーム」を訪問し，施設の概要を見学するとともに，これからの運営方法などについて情報交換を行いました。

研修会では，(農)伊手ファームの菅野代表から，ライスセンターやパイプハウス等施設の説明をいただいた後，地域の農地を守るために法人を設立した経緯についてお話を伺いました。

また，(農)伊手ファーム小林理事からは，今後の品目選定や施設整備に関する考え方を伺うとともに，営農初年目に向けたアドバイスをいただきました。

参加者からは，施設整備や園芸の取組，組織運営など熱心に質問が出されました。同じ中山間地域で営農を進める集落営農組織と相談できる関係が築けたことから，今後の運営にプラスとなることが期待されます。

普及センターでは，今後も関係機関と連携を図りながら，同法人がスムーズに営農開始できるよう支援していきます。

○「農業経営の継承を考える研修会」を開催しました
令和3年12月22日
石巻農業改良普及センター

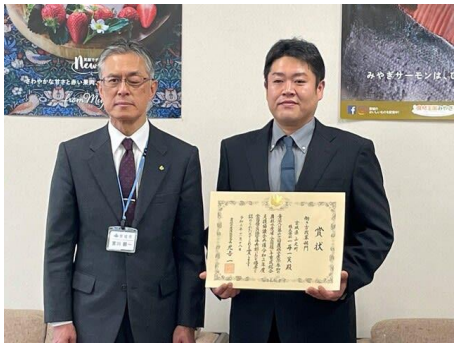
当管内には令和３年 12 月現在，102 の農業法人があり，主な担い手となっています。今後もこの地域の農業を維持し，持続的に発展させていくためには，経営者の世代交代，経営基盤の継承を円滑に進めていくことが大切です。

普及センターでは，農業法人に対して事業継承予定の時期などについて伺うアンケート調査を実施したところ，およそ４割の法人が今後５年を目安に経営の継承を考えているという結果になりました。そのため，円滑な事業継承を行うためにあらかじめ考えておかなければならないこと，準備しておかなければならないことなどについて理解を深め，更なる経営発展につなげていただくことを目的として「農業経営の継承を考える研修会」を 12 月 17 日に開催しました。

講師には(国研)農研機構の山本淳子フードチェーンユニット長をお迎えし，「農業経営における事業継承の在り方」と題した御講演をいただきました。講演では，継承を巡る課題や様々な継承のタイプ，今後多くなると予想される第三者継承を行う際に特に注意しなければならないこと等，実際の事例を交えながら詳しいお話をいただきました。また，事業継承を行う際は，税制など国の優遇措置が受けられることから，これらの支援策について東北農政局の農業組織育成指導官から情報提供をいただきました。

普及センターでは，現経営者の高齢化など特に継承を急ぐ法人に対して円滑な継承がなされるよう早急に支援を実施するとともに，今後も管内農業の持続的な発展に向けて，このような研修会を開催する予定です。

○山元町の(株)一苺一笑が全国優良経営体表彰の農林水産省経営局長賞を受賞しました
令和3年12月28日
亘理農業改良普及センター



12 月 24 日，山元町の「株式会社一苺一笑」が，令和３年度全国優良経営体表彰の働き方改革部門で農林水産省経営局長賞を受賞し，宮城県農政部長から賞状を授与されました。例年であれば全国規模の表彰式が行われていましたが，新型コロナウイルス感染症拡大の懸念からオンラインによる表彰のみとなったため，宮城県庁で実施されたものです。

本表彰事業は，農林水産省と全国担い手育成総合支援協議会が，優れた経営を実践している農業経営体を表彰するもので，「働き方改革部門」は生産性が高く，「人」に優しい職場環境づくりの取組に優れた農業者が表彰されることとなっています。

(株)一苺一笑は，東日本大震災からの復旧にあたり，いちごの生産に加え，観光農園や６次産業化等，多岐にわたる事業を展開しています。いちご栽培では，ICT 活用の環境制御システムの導入により生産効率と品質向上を実現した他，作業の見える化や生産工程管理ソフトの導入により，生産・販売の精度向上や労働時間の削減につなげ，ASIAGAP の認証も取得しています。また，職場環境づくりでは，従業員からの改善要望を経営に反映させるとともに，女子更衣室や水洗女子トイレの整備を行い，加工品開発部門の責任者への女子社員登用等，女性の活躍の場を広げており，令和元年からは障害者就労支援団体と作業委託契約を結ぶなど農福連携にも取り組んでいます。

(株)一苺一笑のこれまでの功績に深く敬意を表するとともに，今後も地域農業の発展に向けて，ますます御活躍されることを祈念いたします。

②新たな担い手の確保・育成

○仙台農業士会が「JRフルーツパーク仙台あらはま」で研修会を開催しました
令和3年12月1日
仙台農業改良普及センター

11 月 19 日，本年３月に開業した「ＪＲフルーツパーク仙台あらはま」において，仙台農業士会第１回研修会を開催しました。本研修会は例年８月に開催していますが，コロナの影響により 11 月の開催になりました。

当日は管内指導農業士６名の参加があり，研修に先立って燃油高騰や米価下落等に関する意見交換を行ったほか，普及センターから補助事業の紹介を行いました。

研修会では「ＪＲフルーツパーク仙台あらはま」の渡部観光農業部長から「仙台ターミナルビルの取組み」と題し，東日本大震災の復興跡地を利用し，大規模観光果樹園事業に取り組んだ経緯や，地域農業者

等との連携による直売所の運営，農業者の育成及び先端技術の実証農場として参画していることなどについて講演いただき，「被災地の人々の笑い声と笑顔が集う場所にしたい」という想いを伺いました。

ほ場視察では，りんごのＹ字仕立て栽培や露地の自動潅水システム等の説明を受け，それらの手法や設備投資について熱心に質問が出されました。

本研修会を通して農業士の皆様の親睦が深まるとともに，経営発展に向けた情報収集の機会となるなど，有意義な研修会となりました。

○～生活を潤す技の伝達～ リーダー研修会・ルーラルガイド講習会
令和3年12月1日
栗原農業改良普及センター

11 月 10 日，栗原市築館農村環境改善センターで，栗原市生活研究グループ連絡協議会のリーダー研修会・ルーラルガイド講習会を開催しました。

これは農山漁村の豊かな生活や風景を活かし築き上げてきた技術を，グループ員に広く伝達することを目的に開催したもので，今回は各地区連のリーダー15 名が参加し，「クラフトテープを活用した生活小物」の作成実習を行いました。

「クラフトテープ」は牛乳パックなどの再生紙でできている紐のことで，元々は米袋の紐として使われていました。現在は手芸用としてカラーバリエーション豊富に揃っており，藤や萩などの植物の蔓に比べ入手及び加工がしやすく，それでいてラタンのような風合いが出ることから，人気が高まってきている手芸の一つです。アイディア次第でバッグやアクセサリーなどさまざまなアイテムを作ることができますが，今回は初心者でも取り組みやすい，小かごの製作に取りかかりました。

かごの土台（底）作りまでは皆，順調でしたが，そこから編み込んでいくところで四苦八苦。交互の編み込みを一つ飛ばしてしまったり，飾り編みがきれいにできなかったりしながらも，なんとかできあがった作品に，「このかごに何を入れるかでまた生活に潤いが出る」，「手先も頭も使うので，アンチエイジングにいいかもしれない」と，参加した皆が達成感と満足感で一杯でした。また，参加者は後日，各地区連に戻り，グループ員に伝達研修を行うことから，作成手法はもとより，材料の数量やあったら良い道具などを細かくメモし，講師にさらにうまく作成するコツを質問していました。

○みやぎ農業未来塾「経営研修会」を開催しました
令和3年12月2日
登米農業改良普及センター

11 月 26 日，新規就農者等の経営管理意識を高めるため「なぜ，資金繰り表が大切か」をテーマに，みやぎ農業未来塾「経営研修会」を登米合同庁舎で開催し，約 20 名の参加がありました。

今回の研修会は，令和３年産米概算金下落により，稲作を営む農業者の資金繰りの悪化が危惧されることから，認定農業者も対象としました。

講師には，中小企業診断士の本田茂氏を招き，資金繰り表の目的や作成のポイントなど，コンサルで指導した実例も交えながら，資金繰り表の必要性について，わかりやすく解説いただきました。また，今後の資金繰り計画の作成にあっては，「米価下落前の経営課題はどうだったのか。あったとすれば，先ず，その改善を検討した上で，この米価下落に対応するための計画を検討することが重要となる」との助言もありました。

出席者は，家族内で収支などの数字を共有して改善することが大切との説明に，自己の経営を振り返りながら聞き入っていました。

○若手生産者向けミニトマト勉強会（第２回）の開催
令和3年12月2日
石巻農業改良普及センター

11 月 11 日，みやぎ農業未来塾「若手生産者向けミニトマト勉強会（第２回）」を開催しました。農業法人の社員等若手生産者ら８人が参加し，ミニトマトの養液栽培ほ場２か所を巡回して，情報交換を行いました。

就農２年目の生産者（東松島市）は，こまめな温度調整と効果的な炭酸ガス施用，養液管理（かん水量・間隔の調整等）で，ミニトマトの光合成能力を最大に引き出し，収量向上を目指しており，「天候に合わせて，スマホからの遠隔操作を行い，生育を調整しています」と話していました。

次に，株式会社めぐいーとでは，ミニトマトの病害虫の早期発見初期防除や，養液のEC管理等で樹勢を強くする工夫をしていました。担当社員からは，「毎年栽培管理を模索しており，今期は，冬期の樹勢維持と収量・品質の向上を目指しています」との説明がありました。

普及センターからは，気温が下がり，日照が少ない冬に向かう中で，重油高騰への対策も含め施設能力を最大限に生かした温度管理を柱に管理していくことが，収量と品質の向上の鍵となると説明しました。

次回は１月に，春先の栽培管理をテーマに開催予定です。引き続き，栽培技術の向上の支援に取り組んでいきます。

○第3回「女性農業者活躍支援研修会」を開催しました

令和3年12月8日
登米農業改良普及センター

11 月 19 日，登米市迫町のアルテラスおおあみで，３回目となる世代を超えた女性農業者が参加する「女性農業者活躍支援研修会」を開催しました。研修会は，先輩から農業や農家生活等を学ぶ機会として，若手女性農業者５名を含む 14 名が参加しました。さらに，登米の食材で商品開発に取り組む若い女性起業志向者も加わりました。

先輩女性農業者として，アグリレディースネットとめの会員が参加し，次代を担う若手女性農業者の悩み相談や，失敗の後に得られた成功体験など，自身の経験に基づき助言・応援が交わされました。また，先輩の活躍事例として，りんごを栽培しているアグリレディースネットとめの芳賀幸恵さんから，仙台市から嫁いだ経緯や，消費者との交流がモチベーションになった経験等が紹介されるなど，若手女性農業者と和やかな雰囲気で意見交換が行われました。

さらに，女性起業志向者からは，芳賀さんのりんごを使ったサラダやピクルス，ビシソワーズ，豆腐ステーキ，豚肉のミルフィーユ，炊き込みご飯，シュトーレンなど，様々なメニューが提供されました。参加者は，自分たちの農産物が多様な料理の可能性を持つことに驚き，生産意欲の高揚にも繋がりました。

今後とも，普及センターでは，女性農業者の世代を超えた交流や異業種とのマッチングなど，女性農業者の社会参画を支援してまいります。

○石巻地区4H クラブが視察研修会を開催しました

令和3年12月8日
石巻農業普及支援センター

12 月１日，石巻地区農村青少年クラブ連絡協議会（４Ｈクラブ）が視察研修会を開催し，クラブ員８人が今年３月に開業した「ＪＲフルーツパーク仙台あらはま」と県農業・園芸総合研究所を視察しました。

ＪＲフルーツパーク仙台あらはまでは，ＪＲ仙台イーストゲートビル観光農業部の菊地専門監から，東日本大震災の津波で被災した復旧農地を利用し，大規模観光果樹園事業に取り組んだ経緯や，経営面での収量や単価向上，経費削減に向け省力化栽培に取り組むメリットなどをお話しいただきました。津波で被災した荒浜地区を，観光果樹園を通して，もう一度人々の笑い声と笑顔が集う場所にしたいという想いを伺いました。その後ブドウハウスにて，短梢せん定による省力的な栽培方法や，イスラエル製の点滴チューブによる均一な灌水・施肥を行う方法について説明を受けました。また，イチゴハウスでは，同社の山村氏から，イチゴの栽培管理技術について教えていただきました。クラブ員はとても熱心に質問や意見交換をしていました。

農業・園芸総合研究所では，研究所の試験研究の概要について説明を受けたのち，自分で組み立てる DIY 型低コスト環境制御システムや，イチゴの品種育成，薪ストーブを利用した加温技術などを学びました。クラブ員は，新しい技術に興味をもって，熱心に見学をしていました。

本研修会を通して様々な情報に触れ，経営発展に向けた情報収集の機会となる，有意義な研修会となりました。普及センターでは，今後も４Ｈクラブの活動を支援していきます。

○みやぎ農業未来塾「みみずコンポスト勉強会」を開催しました

令和3年12月10日
仙台農業改良普及センター

12 月１日，仙台農業改良普及センター管内の若手農業者を対象として，みやぎ農業未来塾「みみずコンポスト勉強会」を開催しました。

今回の研修会に参加したのは，仙台地区４Ｈクラ

ブ連絡協議会のメンバーなど７名で，植物性残渣処理と活用を兼ねた手段の一つとして，みみずコンポストについて学ぶため開催したものです。岩手大学を会場に，岩手大学農学部動物科学科動物栄養機能学研究室の小田伸一准教授から，みみずコンポストの作り方のほか，みみずの管理や扱うときの注意点などについてお話を伺いました。その後，予定時間いっぱいまで質疑応答が続きました。

今回の勉強会の内容をもとに，みみずを利用した新しい取組を計画する参加者もいたようです。普及センターでは，これからも様々な研修機会を通して，青年農業者の支援をしていきます。

○コロナに負けるな！石巻農業士会歓送迎会の開催

令和3年12月10日
石巻農業改良普及センター

12 月２日，石巻市内で令和３年度石巻農業士会歓送迎会が開催され，会員ら 26 人が参加しました。

はじめに，齋藤会長から退任される２名の顧問に対し，会運営への長年の貢献への感謝の言葉がありました。また，新任の農業士４人には，後継者育成や経営改善など，農業士活動の意義と活躍への期待を話され，大震災で培った自信を胸にコロナ禍を乗り越えようと，力強い挨拶がありました。次に，退任される顧問へ花束と記念品を贈呈し，前顧問の挨拶，新任農業士の紹介，石巻普及センター所長から祝辞をいただき，記念撮影などセレモニーを行いました。

懇談では，各農業士が「ダンボルギーニの会社とコラボして販路を拡大しました」，「10 月に家族が増えました」，「ネギで儲け健康が一番です」など近況をスピーチし，自分の経営内容や異業種交流，農産加工販売などについて有意義な情報交換を行い，久しぶりに懇親を深めていました。

○栗原市若柳に新たな農事組合法人が設立されました

令和3年12月17日
栗原農業改良普及センター

12 月 12 日，栗原市若柳の福岡老人憩いの家において，「農事組合法人ふくおか」の設立総会が開催されました。

この地区では，平成 19 年に集落営農組織である「福岡営農組合」（組合員数 54 人）を設立後，地域農業の担い手となる法人の設立へ向けた活動を継続してきました。令和２年６月に準備委員会，令和３年９月には発起人会を立ち上げて準備を進めた結果，組合員数 34 名での法人設立となりました。

同法人は，水稲と大豆を中心に約 40ha の経営規模でスタートし，農地中間管理事業を活用して農地集積・集約化を図り，５年後には 70ha を超える経営規模を目指しています。また，次世代への継承を図るため，後継者の積極的な雇用を計画しており，地域の農業を担う法人として，更なる発展が期待されます。

○農業簿記の基礎研修会で経営力アップを支援！

令和3年12月20日
石巻農業改良普及センター

12 月３日に今年度初めての農業簿記基礎研修会を開催し，新規就農者や女性農業者など５人が参加しました。今回の研修は，普及指導員が講師となり，農業簿記を初めて学ぶ方向けに４回シリーズで開催しています。参加者は，簿記の基本から決算までを演習を通して学び，経営管理に生かしていくことを目的としています。

当普及センターでは，基礎研修会の次のステップとして，パソコンソフトを利用した簿記講座や，各自がパソコンを持ち込んで行う簿記記帳会を開催しています。引き続き，農業者の経営管理向上のため，簿記記帳をサポートしていきます。

○「農業・農村女子会　第2弾」を開催しました！

令和3年12月27日
気仙沼農業改良普及センター

農村女性のネットワークづくりを目的に，12 月 13 日に「農業・農村女子会　第２弾」を開催し，管内の女性３人が参加しました。

震災後から地域の女性とともにコミュニティを育てる活動を行っている特定非営利活動法人ウィメンズアイの栗林美知子氏を講師に迎え，「１年を振り返ってみよう！」をテーマにワークショップを行いました。自らの１年を振り返り，参加者同士で発表し合うことで，自分の抱えている悩みやこれからの課題に対して，新たな視点や解決へのヒントを得ることができ，自分自身を見つめ直すきっかけとなりました。

研修会終了後には参加者同士で連絡先を交換するなど，交流を深めることができた研修会となりました。

③先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援

○「水稲初冬直播栽培意見交換会」が開催されました

令和3年12月17日
亘理農業改良普及センター

12 月６日，岩沼市で「水稲初冬直播栽培意見交換会」が開催されました。

初冬直播栽培は，平年 20 年に岩手大学が考案した技術で，通常３月から４月にかけて行われる乾田直播栽培の播種を，年内に行うことで作期を拡大することができます。既に現地実証の段階に入っており，亘理農業改良普及センター管内の法人も，来年度から実証ほ場を担当することになりました。

本会は，初冬直播栽培の現状や課題等について，実証ほ場を担当する農業者や関係機関で共有するために開催されました。岩手大学の下野教授からは出芽率を確保するための種子コーティング等の技術の要点，古川農業試験場からは場内試験で得られている基礎データ，農業者からは直播栽培の取組状況，普及センターからは直播栽培の支援状況について説明しました。意見交換の中では，降雪の影響や施肥方法について等活発な議論がなされ，有意義な会となりました。

普及センターでは，今後も直播栽培の拡大に向けて支援してまいります。

○ぶどうせん定講習会を開催しました

令和3年12月22日
石巻農業改良普及センター

ＪＡいしのまきと当普及センターでは，直売所などの販売品目拡大のため，以前から果樹の新植を進めており，新たに果樹の栽培を始める生産者も増えてきています。なかでも，皮ごと食べられる食味に優れたぶどう「シャインマスカット」の栽培面積は，水稲育苗ハウスへの作付けなどにより年々増えており，直売所に出荷する生産者も多くなっています。

ＪＡと普及センターでは，このような生産者の栽培技術向上のため，毎年季節ごとの管理に関する講習会を開催しています。冬季はぶどうの管理の中でも最も重要な作業であるせん定作業を行う時期にあたるため,12 月 20 日にせん定講習会を開催しました。

今回は県農業・園芸総合研究所の職員が講師となり，次年度の結果母枝のせん定位置や芽傷の入れ方，副梢の処理の仕方など，基礎的な技術について解説を行いました。

普及センターでは，今後も講習会などの活動を通じて，管内の果樹生産を振興していきます。

○アグリテックアドバイザー派遣事業を活用したほ場管理システム（KSAS）の研修を実施しました

令和3年12月24日
石巻農業改良普及センター

宮城県では，ICT 技術を活用したスマート農業の普及推進を図るため，スマート農業に精通した専門家を派遣する「アグリテックアドバイザー派遣事業」を実施しています。12 月 21 日，東松島市の農事組合法人奥松島グリーンファームと株式会社高橋農産を対象にして，本事業による研修会を石巻合同庁舎で開催しました。

研修会では，株式会社アグリ東北の鈴木健也常務をアドバイザーとして迎え，ほ場管理システム（KSAS）の導入や活用方法について指導・助言をいただきました。講演の中では，KSAS のセットアップ（ほ場，社員，農業機械等の登録）や社内での情報共有（作業指示の送信と受信方法，作業の進捗状況の確認），収量・食味コンバインと可変施肥田植機の連携による取得データの活用方法について説明を受けました。

講演後の意見交換では，同様のほ場管理システムZ-GIS との機能の違い等についての質問や議論がありました。その他，ドローンの活用方法に関して，オペレーターの数や具体的な操作方法について，オペレーター一人で効率的に稼働させるため，バッテリー６個，充電器３台を使い回して使用していることや，一日の作業地域は広くないため位置の補正は１回としていること，自動運転は使わずオペレーターによる手動操作としていること等の工夫が紹介され，活発な意見交換が行われました。

両法人では，本研修を参考にして，今後，スマート農業技術の活用を検討していく予定です。

○初冬直播栽培意見交換会が開催されました
令和3年12月27日
仙台農業改良普及センター

12 月６日，水稲初冬直播栽培の普及を図るため，古川農業試験場主催で意見交換会が開催されました。

初冬直播栽培とは，岩手大学が開発した，11 月下旬～３月上旬の比較的時間や労力がある時期に行う作業分散播種技術のことです。慣行乾田直播栽培で使用している機械を利用できるため，すでに乾田直播に取り組んでいる生産者の方であれば，そのまま使用できます。

始めに，当該技術を開発した岩手大学の下野教授から，初冬直播栽培について講義いただき，苗立ちを確保するための播種量やシグモイド型緩効性肥料の有効性など，ポイントや注意点について学習しました。また，実際に管内で初冬直播に取り組んでいる生産者から事例紹介があり，経営面積の拡大や，初冬直播によって作業時期の幅が広がり，春先の負担が軽減されたという報告がありました。

今後，さらなる農業人口の減少が懸念されており，それに伴って経営体あたりの作付面積が増えることが想定されます。そのため，移植や慣行の乾田直播に加えて，初冬直播を組み合わせることで，作業時期を分散し，生産者の労力負担軽減の一助となることが期待されます。初冬直播栽培に関心のある方は，普及センターまで御相談ください。

④園芸産地の育成・強化支援

○いちご圃場巡回指導会が開催されました
令和3年12月1日
栗原農業改良普及センター

11 月 16 日，ＪＡ新みやぎ栗っこいちご部会によるいちご圃場巡回指導会が開催され，生産者９人が参加し，ＪＡ新みやぎ栗っこ，農業・園芸総合研究所，普及センターの担当者とともに各生産者の圃場を巡回しました。

各圃場では，いちごの生育状況と定植後の管理を確認しました。いちごは開花期から果実肥大を迎えており，温度管理や電照方法，病害虫防除について生産者が相互に意見交換を行いました。

農園研からは，今後の栽培管理として，栄養生長に傾くよう温度設定や CO2 施用等を行うことや，これから発生が多くなる生理障害の種類と対策について説明がありました。普及センターからは，病害虫防除として，薬剤の抵抗性発達を防ぐために RAC コード（農薬の作用機構分類）を参考に，系統の異なる薬剤をローテーションで散布するよう説明しました。

普及センターでは，今後ともいちごの安定生産に向け支援を行っていきます。

○JAみやぎ登米花卉部会のストック出荷査定会開催
令和3年12月8日
登米農業改良普及センター

11 月 25 日，登米市迫町の大瀬集出荷場でＪＡみやぎ登米花卉部会ストック専門部の出荷査定会が開催され，部会員や市場関係者等 18 名が参加しました。

市場関係者から販売状況，ＪＡ担当者から出荷規格の確認，普及センターから農薬の適正使用について説明を行いました。特にＪＡ担当者からは，切り前（収穫適期の状態）の開花輪数について，通常は７～８輪，春彼岸向けは５～６輪を目安とするよう再確認がありました。査定会終了後は，迫町と中田町の２か所の施設を回り，生育状況を確認しながら生産者相互で熱心に意見交換を行いました。

ＪＡみやぎ登米のストック共選出荷は，低温の影響により，昨年より出荷が１週間程度早い 11 月７日

から始まり，３月下旬までの間，仙台や石巻市場，札幌市場などに出荷されます。

ＪＡみやぎ登米花卉部会のストックは，令和２年度販売実績で，出荷数量約 57 万本，販売額約４千万円と県内一を誇ります。部会員・関係者とも，今後の良品出荷に向けて意識を高めていました。

○「石巻せり鍋」発表会が開催されました！

令和3年12月8日
石巻農業改良普及センター

石巻市の冬の新たな名物をＰＲしようと，石巻市河北地区特産の河北せりを使用した「石巻せり鍋」の発表会が 11 月 18 日に石巻市で開催されました。

今回の取組は，(一社)石巻圏観光振興機構が企画したもので,令和２年 12 月に地理的表示保護制度(GI)に河北せりが登録されことから，地域ブランドとして認証された河北せりと，石巻市特産である「牡蠣」を一緒に調理した鍋を「石巻せり鍋」と新たに名付け，普及を図るものです。

発表会には生産者代表のパネラーとして，河北せり振興協議会の高橋会長が参加し，河北せりの特長や栽培管理で気をつけていること，新たな料理法への期待等を紹介されました。

年末に向かい生産のピークを迎え，需要期に入る河北せりですが，普及センターでは引き続き，生産技術指導や販売促進活動への支援を行います。

○JA みやぎ登米そらまめ部会の現地検討会が開催されました

令和3年12月10日
登米農業改良普及センター

12 月７日，ＪＡみやぎ登米そらまめ部会の部会員が参加し，登米市石越町のほ場２か所で現地検討会が開催されました。そらまめ栽培では，年内に充実した株をつくることが来春の収量を確保するうえで重要なため，部会では毎年この時期に検討会を行っています。

現地検討会では，それぞれのほ場の管理状況を確認し，生産者同士，活発な意見交換が行われました。普及センターからは，気象経過や不織布による被覆等，今後の管理のポイントを説明しました。

ここ数年，そらまめの生育にとって最も重要な春の時期に，極端な乾燥や降雨が発生しています。検討会では，この気象の変化に負けない充実した株づくりに向け，生産者がそれぞれの課題と対策を確認することができました。

○宮城県なし栽培研修会に管内の農家が参加しました

令和3年12月16日
仙台農業改良普及センター

県と園芸協会が共催する「宮城県なし栽培研修会」が 12 月３日に開催され，管内の利府梨部会と多賀城市果樹生産組合から 15 名が参加しました。この研修会はなし栽培農家の経営安定と技術向上を図ることを目的とし，毎年，県農業・園芸総合研究所で開催されています。

ほ場でのせん定実技研修では，県内各産地から参加した栽培農家が「幸水」と「あきづき」のせん定を行い，その結果を全員で検討しました。講義では，農業・園芸総合研究所の職員を講師に，今年の春先に発生した凍霜害の発生要因と技術対策について，また，茨城県農業総合研究センターの専門技術指導員を講師に，果樹で問題となっている白紋羽病の防除技術について学びました。参加者からは技術の実践方法に関する質問があるなど，農家の課題解決のために有意義な研修会となったようです。

○仙南地区の「たまねぎ」作付け拡大へ栽培研修会を開催しました

令和3年12月17日
大河原農業改良普及センター

11 月 18 日，みやぎ仙南農業協同組合本店にて，仙南地域の園芸振興品目である「たまねぎ」の栽培研修会を開催しました。

仙南地域のたまねぎ作付面積はおよそ５ha。ＪＡ及び普及センターが連携して，水稲からの転換品目としてさらなる作付け拡大を目指しています。研修会では，秋まきや晩秋まき栽培の概要，排水対策を強化したほ場の実証，ＪＡリース機械による一貫体系栽培，水田で栽培している方の事例等を紹介しました。特に，機械化一貫体系の紹介では，初めて取り組む人の理解を深めるため，播種から出荷まで使用される機械が稼働している様子を編集したミニ動画を流しました。

参加者は，ほ場整備を予定している地域の担い手25名を含むおよそ60名。この中から新たに取り組む担い手による、さらなる作付け拡大を目指します。

○冬の味覚をレジャーや食卓でどうぞ味わって！

令和3年12月27日
仙台農業改良普及センター

日増しに寒さが厳しくなってきましたが，仙台市内の２か所のいちご摘み取り農園では，令和４年１月５日から暖かな大型ハウスの中でいちごの摘み取りが楽しめます。農園は仙台市泉区松森にある「株式会社一苺一笑松森農場」と若林区荒浜にある「ＪＲフルーツパーク仙台あらはま」です。宮城県オリジナル品種の「もういっこ」，本格デビュー２年目の「にこにこベリー」の他，摘み取り農園ならではの様々な品種のいちごを食べ比べすることができます。営業時間や料金，アクセスのほか，新型コロナウイルス感染症対策への協力等，詳細については，各ホームページ等で御確認いただき，ぜひ御家族，御友人と共にお立ち寄りください。

また，畑でじっくりと寒さにあたって育った冬野菜が，その美味しさを増してくる時期です。仙台市と黒川郡は，県内トップの曲がりねぎの産地です。畑でまっすぐに育てられたねぎは，一度掘り上げて，再び斜めに寝かせて土に埋めると，日の光に向かって立ち上がろうとして曲がりながら伸びます。この時のストレスによって柔らかく育ち，さらに寒さにあたることで甘みが増します。鍋の食材として欠かせない，この時期だけの味わいが楽しめますので，ぜひお買い求めください。

○南三陸町で初のぶどうせん定講習会を開催しました

令和3年12月27日
気仙沼農業改良普及センター

12月14日に南三陸町において，管内で初のぶどうせん定講習会を開催し，ぶどう栽培者14人が参加しました。

せん定講習会では，当普及センター職員が講師となり，定植４年目の「シャインマスカット」を用いて，短梢せん定方法について実演を交えて指導を行いました。ぶどうの枝の性質など，基礎事項を説明し理解を深めた後に，せん定のポイントを説明しながら実習を行いました。参加者からは，充実した枝の見極め方など，積極的に質問があり，有意義な講習会となりました。

普及センターでは，今後も果樹の安定生産に向けた支援を行っていきます。

○亘理・山元果樹産地協議会が設立されました！

令和3年12月28日
亘理農業改良普及センター

12月24日，ＪＡみやぎ亘理本店で「亘理・山元果樹産地協議会」の設立総会が開催されました。

当協議会は，亘理町・山元町内の生産者組織と両町，当農業改良普及センター，農地中間管理機構，ＪＡの７機関で構成されています。

果樹産地協議会は，産地の維持・発展のため，果樹産地の担い手が行う優良品目や品種への改植，小規模園地整備など，果樹経営の基盤を強化する取組に対し，国が支援する事業の受け皿となる組織で，県内では３番目の設立になります。

片平新会長からは，「県内最大のりんご生産地で歴史がある当地域だが，老木化した樹も多く，今後は，国事業を活用して，改植や新植を進めていき，産地の維持・発展を目指したい」と抱負の言葉がありました。

普及センターでは，今後，関係機関と共に産地計画の作成や事業導入に向けた支援を行っていきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○令和3年度新嘗祭に気仙沼市本吉町の芳賀一充氏が献穀献納しました
令和3年12月3日
気仙沼農業改良普及センター

令和３年度新嘗祭に，宮城県を代表して，気仙沼市本吉町の芳賀一充氏がササニシキの新米を献納しました。芳賀氏は昨年度の宮城県農林産物品評会（玄米の部）で農林水産大臣賞を受賞し，その功績が認められ，今回の献穀者に管内で初めて選出されました。

今年は新型コロナウイルスの影響で例年執り行われる皇居での献穀献納式が中止となり，残念ながら輸送での献穀となりましたが，11 月 23 日に明治神宮会館で開催された農林水産祭式典に出席されました。

芳賀氏は，平成 26 年に株式会社小峯興業を設立し，従来の移植栽培と併せて鉄コーティング直播栽培にも取り組んでおり，現在は 10ha の水稲を作付けしています。今年は新たに「金のいぶき」の栽培実証を行う等，地域の重要な担い手として活躍されています。

○第5回全国ササニシキ系「ささ王」決定戦 2021 が開催されました
令和3年12月7日
大崎農業改良普及センター

11 月 19 日，大崎市等が主催する第５回全国ササニシキ系「ささ王」決定戦 2021 が県古川農業試験場で開催されました。一昨年度から応募範囲を全国に拡大し，今回は「ささ結」22 点，「ササニシキ」69 点，計 91 点（前年比５点増）と過去最大の出品数があり，第一次審査を通過した９人 10 点が最終審査に臨みました。その結果，第５代「ささ王」は，「ササニシキ」を出品した山形県米沢市の小関恭弘氏が受賞しました。金ささ賞は，加藤憲治氏（ササニシキ・大崎市）と佐藤徳志氏（ささ結・大崎市，初代ささ王）の２名が受賞しました。

今年は「ササニシキ」の出来が例年以上に良く，いずれもハイレベルで審査が難しかったようです。

普及センターでは，稲作生産者の所得安定化に繋がる「ささ結ブランドコンソーシアム」の取組を引き続き支援していきます。ぜひ大崎のささ結，ササニシキをご賞味ください。

○気仙沼市本吉放牧場検討会が開催されました
令和3年12月22日
気仙沼農業改良普及センター

12 月２日，気仙沼市本吉放牧場において今年度の放牧状況についての検討会が行われました。気仙沼市本吉放牧場は農事組合法人モーランドが運営主体となり，通年で乳用種育成牛を広大な放牧場で放牧しています。

今年は昨年を上回る１日平均 77 頭の牛が放牧され，定期衛生検査を担当した東部家畜保健衛生所からは「目立った疾病もなく，体重も順調に増加している」と，検査データを見ながら説明されました。農事組合法人モーランドからは，人工授精の実施状況について説明があり，「なかなか受胎しない牛も数頭いたが，２回以内に受胎した牛も多く順調だった」と，放牧牛の状態が良好だったことが窺えました。

昨年は，新型コロナウイルス感染対策のため検討会を開催できず，２年ぶりの開催となったため，検討会に参加した農家は放牧牛が元気に放牧されていることを確認するとともに，農家同士での有意義な情報交換の場となりました。

○稲作実践盟友会稲作経営総合検討会が開催されました
令和3年12月24日
栗原農業改良普及センター

12 月 13 日に南三陸町のホテルを会場に，稲作実践盟友会主催の稲作経営総合検討会が開催されました。

稲作実践盟友会は，栗原市内の大規模稲作経営者らで平成５年に設立された組織で，会員は現在 19 名です。稲作の栽培技術体系の検討と情報交換を定期的に行い，稲作経営の安定と生産性の向上を目指しています。本検討会では，「ひとめぼれ」の多収・食味コンクール表彰後，普及センターから稲作の作柄概況について報告し，各農薬メーカーが新農薬等の情報提供を行いました。

「ひとめぼれ」の多収・食味コンクールは設立当初から続く事業で，会員が持ち寄った坪刈株を共同で脱穀，籾摺りを行い，普及センターが玄米品質・食味分析の支援を行っています。今後も普及センターでは，稲作経営の安定と生産性の向上を目指す稲作実践盟友会の活動をはじめ，生産者の自主的な活動を支援していきます。

○JA新みやぎ栗っこ稲作総合検討会が開催されました
令和3年12月24日
栗原農業改良普及センター

12月14日，ＪＡ新みやぎ築館支店を会場に，ＪＡ新みやぎ栗っこ地区本部，ＪＡ新みやぎ栗っこ米戦略部会が共催する稲作総合検討会が開催されました。本検討会には，稲作各部会の会員や稲作生産者が出席し，本年産米の作柄や次年産に向けた対策について検討しました。

はじめに普及センターから，本年産米の作柄概況と次年産に向けた対策について説明しました。本年は，気象変動の大きい年ではありましたが，収量は概ね平年並みで，1等米比率は高く，品質は非常に良好でした。その後，ＪＡ全農みやぎから米の販売状況，東北農政局から来年度の農業政策等について情報提供がありました。

参加者からは，米価下落や資材費の高騰等，稲作農業を巡る情勢は厳しいが，互いに知恵を出し合い，省力・低コスト化に努めることで，稲作経営を安定させていきたいとの声が聞かれました。

２．農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○令和3年度「金のいぶき」実績検討会が開催されました
令和3年12月2日
美里農業改良普及センター

「金のいぶき」は，玄米食でもおいしく食べられる専用品種ということで健康志向の需要があるのに加え，昨今の「内食」需要の高まりもあり，生産・出荷数量の拡大が求められています。しかしながら，通常品種と比べて安定生産が難しい品種特性があるため，収量確保が不安定で，栽培技術の普及・向上が求められています。

ＪＡ新みやぎみどりの稲作生産部会涌谷支部では39ha（20人）で生産を行っており，育苗や本田での生育状況確認，追肥診断など，栽培技術の向上に向けた熱心な取組を行っています。

11月19日，本年産の金のいぶきの生産実績に関する検討会が開催されました。本年産の作付けに向けては，ケイ酸質資材の施用や減数分裂期追肥を実施することとしており，概ね実践されたものの，昨年よりくず米が多い傾向で，収量水準が低下してしまいました。普及センターからは，本田観察や調査結果等から，対策自体は有効に働いたと見られること，生育の遅れやバラツキが，気象条件と相まって収量低下につながった可能性があること等を説明し，次年度の生産に向けて参考となるよう助言しました。

「金のいぶき」の安定生産に向けて，本年産で得られた知見を整理して次年産の対策に活かせるよう，普及センターでは今後も継続して支援していきます。

○「金のいぶき」が管内で初収穫されました
令和3年12月2日
気仙沼農業改良普及センター

本年度から気仙沼管内で栽培実証を開始した水稲品種「金のいぶき」の初収穫が行われました。

「金のいぶき」は，お米の品種の中でも珍しい玄米食専用品種です。胚芽が「ひとめぼれ」などの玄米と比較して大きく，プチプチとした食感や食味の良さ，GABA やビタミンＥなどの栄養成分を豊富に含むこと，また，低アミロース米のため，白米と同じ水加減・時間で炊けるという特長があります。

現在は需要に対して栽培が少なく，なかなか手に入りづらいお米です。一方，施肥や病害虫の防除などきめ細やかな栽培管理が必要な品種であり，これまで作付経験がない当管内で安定した栽培を行うには，地域の条件に合った方法を検討する必要があります。

広く皆様に味わっていただけるよう，当普及センターでは管内での栽培拡大を目指し，今後も栽培実証を継続していきます。来年度は現地検討会も開催予定ですので，興味のある農家の皆様は是非お問い合わせください。

○水稲採種組合の栽培講習会が開催されました
令和3年12月3日
栗原農業改良普及センター

11 月 30 日，金成末野水稲採種組合の栽培講習会が開催されました。本年の種子生産の振り返りと今後の採種技術の向上を目的とし，組合員 18 名，ＪＡ新みやぎ栗っこ及び普及センターの担当者が出席しました。

普及センターからは本年の水稲生育経過，作柄及び病害虫発生状況について説明するとともに，種子審査の結果について報告しました。また，ＪＡ農産物検査部門の担当者から，本年産水稲の品質・被害粒の状況について報告がありました。

本年は，いもち病に関する注意報が発表されるなど，病害虫の発生や８月中旬の低温等による登熟への影響が懸念されたものの，概ね順調な生育経過で平年並の作柄となり，採種組合では，「ひとめぼれ」等の主要品種について計画どおりの種子を確保することができました。本年の反省点などを踏まえ，参加した組合員は，次年度の種子生産へ取り組む決意を新たにしていました。

○清流「蔵の華」廿一会の栽培反省会を開催しました

令和3年12月23日
気仙沼農業改良普及センター

12 月 14 日に，清流「蔵の華」廿一会の栽培反省会を開催しました。本会は，気仙沼市新月地区において酒米品種「蔵の華」の栽培に取り組んでおり，気仙沼市内の２つの蔵元に全量出荷しています。

本年の振り返りをもとに，来年に向けさらに収量，品質を向上していけるよう，活発な議論が行われました。

今年はおおむね高温基調で生育がかなり早まった一方，８月中旬は低温寡日照になるなど，気象の変動が大きい年でした。施肥管理や病害虫防除の時期を見極めるのも難しい年でしたが，例年より１等米が多く，品質は良好でした。

本年度の課題として，雑草防除の難しさがあげられたことから，次年度に向け，水持ちを安定させるほ場管理や草種に合った薬剤の選択を徹底していくことを確認しました。

当普及センターでも，地域の特色ある取組として気仙沼を盛り上げていけるよう，来年度以降も支援を行っていきます。

３．持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○新規園芸品目のそらまめを定植しました

令和3年12月2日
仙台農業改良普及センター

11 月 20 日，仙台市太白区の農事組合法人あきう生産組合の水田ほ場において，昨年から新たに取り組んでいるそらまめを定植しました。

同組合では，現在，水稲・大豆・そばを主体に経営していますが，農地及び労力の有効活用と所得向上，さらに今後の従業員の周年雇用に向けて，新たな園芸品目の導入・定着について検討しています。普及センターでは，昨年からその有望品目として，秋播きそらまめの導入について提案しており，10 月 23 日に播種し，育苗していたそらまめを，同組合の構成員等８名で定植作業を行いました。

昨年は，秋に定植した苗がうまく冬越しできず，春播きした苗で枯死した株の補植を行いましたが，収量を確保できませんでした。今年はその経験を活かし，播種・定植の時期やほ場，畝の方向等を変更して約 15ａ定植しました。

当センターでは，来年６月頃の収穫･出荷に向けて，今後も巡回による助言や資料の提供等を行うこととしています。

○令和３年度気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会移動研修会を開催しました！

令和3年12月3日
気仙沼農業改良普及センター

11 月 30 日，水産業で活躍している管内女性の活動を学ぶとともに，農村活動の充実を図ることを目的に「令和３年度気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会移動研修会」を開催し，会員 26 人が参加しました。

研修会では，宮城県漁協大島支所女性部会長の畠山悦子氏に講演をしていただきました。畠山氏は当支所女性部の会長を40年務めるとともに，これまでに宮城県漁協婦人部会長や全国漁協女性部副会長を務めるなど，漁業における男女共同参画活動等に尽力されています。講演では，東日本大震災前から震災後にかけて行ってきた女性部の活動や，ブルーツーリズム活動などの紹介のほか，女性部の活動資金を集めるために製作した稚貝のアクセサリー，防災グッズなどを見学させていただきました。参加した会員は講演を聴きながら深く頷いたり，製作品について質問するなど，充実した研修会となりました。

今回の研修で学んだ視点が，今後の農村活動に生かされることを期待しています。

○鳥獣害対策担当者研修会が開催されました

令和3年12月10日
仙台農業改良普及センター

12月2日に，仙台地方振興事務所管内の市町村・ＪＡの担当者を対象として，鳥獣害対策担当者研修会が開催されました。

今回の研修会は，仙台地方振興事務所農業振興部が主催で，被害地域や被害額が年々拡大している鳥獣害対策について学ぶため，合同会社東北野生動物保護管理センターの小野田泰士研究員を講師に「鳥獣被害対策の基本」と題し，鳥獣害対策には捕獲だけではなく，環境整備や侵入防止柵など総合的な対策が必要であること，また，捕獲に係る人材確保に関する事例などについて学びました。

研修会では野生動物の動画が多数紹介され，侵入防止柵の維持管理が重要であることを実感しました。

普及センターでは，これからも関係機関と連携しながら鳥獣害対策の支援をしていきます。

○いつもの冬野菜が大変身！生活研究グループ研修会を行いました

令和3年12月21日
大崎農業改良普及センター

12月9日，大崎地域農村生活研究グループ連絡協議会が「冬野菜料理研修会～寒い冬も冬野菜で元気をチャージ♪～」を，大崎市古川のアインパルラ浦島で行いました。

当協議会は，大崎市古川と加美町の計18の生活研究グループからなる組織で，毎年食育などをテーマに研修会を行っています。

今回はネギやシュンギクなど，グループ員が自ら生産した農産物13品目を材料に，プロの手で大変身した料理6品をいただきました。食材を提供したグループ員からは，野菜の生育概況や我が家での食べ方について紹介を行うとともに，シェフからは変色を抑えたヤーコンの下処理などの解説がありました。また「小松菜ジュレの隠し味は？」など，シェフへの質問もあがり，お弁当販売や農家レストランでのアイディアを得ていました。

普及センターでは今後も関係機関と連携し，女性農業者の資質向上と交流を推進していきます。

○女性農業者を対象にキャリアアップ研修会を開催しました

令和3年12月28日
美里農業改良普及センター

美里農業改良普及センターでは，自家生産物を利用した商品づくりなど，女性農業者の能力開発を支援しています。

12月3日には食品衛生や農産加工について学ぶ研修会を開催し，管内の女性農業者20名が参加しました。

研修会は二部構成で行われ，始めに大崎保健所の職員より，令和3年6月から施行された食品衛生法の改正点や，HACCPに基づく衛生管理について講義を受けました。HACCPの考えに基づいた衛生管理を基本に忠実に行う事や，計画を作成し，計画通り行われているかチェックをし，記録に残す事が大切である事を確認しました。

研修会の後半は，「みやぎの食を伝える会」の菅原美代子氏より，漬け物加工の基本について講習を受けました。加工目的による加塩割合の変化について説明を受けた後，実習として，自分の味覚を確かめるために，異なる塩分濃度の塩水5種類のティスティングを行いました。参加者は，味見した塩分濃度が，普段の感覚と合っているとうなずいたり，首をかしげる様子も見られました。

その後は，安全で美味しい漬け物づくりについて質問が出され，熱心に意見交換が行われました。

普及センターでは，今後も研修会等を通じて女性農業者の資質向上を支援します。

普及指導員が県内9か所の普及センターで，農業者を支援しています。

＜大河原＞
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

＜亘　理＞
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

＜仙　台＞
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

＜大　崎＞
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

＜美　里＞
〒987-0005
美里町北浦字笹舘5
TEL:0229-32-3115

＜栗　原＞
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

＜登　米＞
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

＜石　巻＞
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

＜気仙沼＞
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068

＊各農業改良普及センターには，「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら，上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場　NEWS LETTER　No.179
発行日:2022 年 1 月 26 日
発　行:宮城県農政部農業振興課
編　集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837　FAX:022-211-2839
E-mail ： gbfs@pref.miyagi.lg.jp